

「保湿化粧品開発の基礎と最新技術—皮膚科学・商品トレンドをベースに」

2024年3月12日(火) 13時～17時

◆(ZOOMによるオンラインセミナーのご案内)

◆参加費：19,000円(税込)

◆予稿集：開催日前にご郵送いたします

Fax/03(5913)8549

◆申込先：技術教育出版社：〒166-0015 東京都杉並区成田東3-3-14 ニックハイムビル 106:Tel/03(5913)8548

◆コーディネート：(株)CIEL・正木 仁氏 ◆お申込みいただいた皆様には、開催日が近くなりましたら、アクセス用URL等をメールにて通知いたします。なお、アクセス用URLはご登録者以外に絶対に知らせないでください。

◆開催にあたって

本講演会では、保湿化粧品の基礎と最新技術について皮膚科学・商品トレンドをベースに解説することを目的として、「結合型セラミド」「疑似セラミド」「グリセリン」「皮膚表皮ケラチン繊維ネットワーク制御」「角層タンパクの酸化と皮膚バリア機能」について詳述する。

◆プログラム(講演概要)

1、13時～13時50分

「皮膚表皮バリア形成と保湿における皮膚表皮ケラチン繊維ネットワーク制御」 東京工科大学 松井 毅先生

表皮角化細胞は、表皮上層の顆粒層において細胞死を起こした後、高密度のケラチンネットワークを形成する。これにより、角質細胞に強度を与えると共に、細胞質内に水分子を保持し、角質層(角層)の保湿能を制御している。この角層における高密度ケラチンネットワークは、顆粒層が細胞死を起こす際の特殊な細胞内イオン変化と、それに伴う様々な生化学反応により影響を受けると考えられる。これら現象についてこれまでの研究成果を含めて御紹介する。

2、13時55分～14時45分

「グリセリンによる角層保湿機能の向上と保湿外用剤の設計指針」 阪本薬品工業(株) 豊島亮祐氏

グリセリンは高い安全性と保湿効果を示し、古くから保湿剤として化粧品や外用剤に配合されている。一方で、角層に対する科学的根拠に基づく作用メカニズムは未解明であった。我々は、高輝度放射光によるX線回折測定により、グリセリンやその二量体であるジグリセリンを作用させた皮膚角層の分子レベルの変化を解析し、これら保湿剤の作用メカニズムを明らかにした。本講演では、グリセリン/ジグリセリンの角層への作用メカニズムについて述べる。併せて、これらの知見を応用した保湿外用剤の設計指針についても解説する。

3、14時50分～15時25分

「細胞老化が引き起こす表皮変化の解析と抑制-結合型セラミドへの着眼-」 大正製薬(株) 井野口友紀氏

細胞老化は、加齢や様々なストレス刺激により細胞が不可逆的に増殖を停止する現象である。我々は、細胞老化がバリア機能やその維持に不可欠なセラミドである結合型セラミドに及ぼす影響を明らかにした。さらに、細胞老化が引き起こす表皮変化を抑制する分子標的を見出したため、これらの研究成果を紹介する。

4、15時30分～16時05分 「疑似セラミドを配合した保湿剤の有用性」 花王(株) 赤羽智紀氏

角層細胞間脂質の主成分であるセラミドは皮膚のバリア機能や水分保持機能に重要な役割を有する。そのため、モデル荒れ肌にセラミドを補うことで水分保持機能の改善が認められている。我々はこれまでに、天然型セラミドと同等の保湿効果を発揮する疑似セラミドを開発、保湿剤に応用してきた。本講演では、疑似セラミドを配合した保湿剤の有用性に関する知見を紹介する。

5、16時10分～17時 「角層タンパクの酸化と皮膚バリア機能」 (株)CIEL 正木 仁氏

角層は、生体を保護する一番目の防御として機能し、適度に水を保持することにより新しい角層形成の循環を維持している。したがって角層内への適度な水分保持は美容的な観点のみならず機能的な観点においても重要である。一方、外環境と接していることから環境因子により容易に酸化修飾される。本講では角層タンパクの酸化とバリア機能の関係についての知見を紹介する。

申込書	保湿化粧品開発の基礎と最新技術—皮膚科学、商品トレンドをベースに	HP
社名		
所属		
氏名(ふりがな)		
住所	〒	
FAX	TEL :	
e-mail		

お申し込み：FAX：03-5913-8549 またはメール：gijyutu@iaa.itkeeper.ne.jp 「お支払予定日」月 日
「申し込み締切日：3月4日(月) 申込締め切り後のキャンセルは禁止事項です」<http://www.kbsweb.org/Gijyutukyokuiku/>
「お振込みは、当社より、請求書が届いた後にお手続きをお願いいたします。振込み手数料はご負担下さい。」